

授業科目名	法学			科目コード	G5806P03
英文名	Law				
科目区分	教養科目 - 社会理解科目				
職名	客員教授	担当教員名	後藤 智		
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科		
曜日	水曜日	時限	3限目		
開講時期	1年・2年前期	授業の方法	講義		
必修・選択	選択	単位数	2単位		
授業の概要	この授業では、法学という学問分野を初めて学ぶという学生を対象とし、法とは何かということについての検討を通じて、法制度に関する基本的知識を得ることと法的なもののみかたや考え方の基本を修得することをねらいとしています。人権保障の意味についての正確な理解にも努めます。まずは法や法学についての基礎的知識を得ることから始め、時には具体的な事例を素材にして、「法学的に考える」ための訓練をしていきます。				
キーワード	法の役割	法の機能	法と権利	人権保障	法の歴史的展開
到達目標	法と人権保障の関係についての理解を行うことができる。（40％）				
	自分自身の生活とのかかわりで「法」を捉え、自分が社会生活を送る上で必要な法制度の基本的意味が理解できる。（40％）				
	「暗記する(覚える)」学習にとどまるのではなく、実際の具体的事例を踏まえつつ、客観的に問題の所在を把握し、論理的に考える力を養うための学習ができるようになる。（20％）				
ディプロマポリシー	1.「人」としての能力（人間性の向上）		4.社会人としての能力（社会性の向上）		
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上		専門分野に共通する基礎知識の向上		
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
		○			
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
	○				

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス、受講上の諸注意—事前学習（予習）のすすめ 「法を学ぶ」ということの意味について	
	【予習】「授業外学習等」欄参照（第2回以下同じ）。	30分
	【復習】「授業外学習等」欄参照（第2回以下同じ）。	30分
第2回	1 私たちと法のかかわり 法とは何か—社会規範としての法、法と規範（ルール）、法と他の社会規範との異同、権利の体系としての法	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	1 私たちと法のかかわり（続き） （続）法とは何か—法の目的・機能・役割、国家の存在意義、法の存在形式（法源）、法の効力関係 * 法規範の特質と機能	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	2 法の歴史的展開—前近代から近代そして現代へ （1）西欧的近代法の成立、その意義・内容と展開...国民主権主義、民主主義、立憲主義、法治主義という概念	
	【予習】	30分
	【復習】	
第5回	2 法の歴史的展開—前近代から近代そして現代へ（続き） （2）近代法から現代法へ * あらためて、法の役割とは？ * 法と統治機構 * 国家や多数者によっても侵害できない基本的人権 * 人権保障と実質的平等	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	2 法の歴史的展開—前近代から近代そして現代へ（続き） （3）日本における法の歴史と法意識 * とくに第2次世界大戦前と後の違い * 日本人の法意識	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	3 法学の学び方 （1）法解釈と価値判断 * 法的価値判断の基準とは？ * 法解釈の意味、その主体	
	【予習】	
	【復習】	

第8回	3 法学の学び方（続き） (2) 法を学ぶことの意義、法的思考とは * 客観的事実に基づく論理的思考 * 結論に至るプロセスや価値判断の重要性 * 法的に保護される価値としての人権	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	4 憲法はなぜ必要なのか (1) 憲法の究極の価値 (2) 最高法規とは	
	【予習】	
	【復習】	
第10回	4 憲法はなぜ必要なのか（続き） (3) 民主主義と少数者の人権 * 多数意思による少数者の人権侵害・人権抑圧の防止と憲法	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	4 憲法はなぜ必要なのか（続き） (4) 「憲法改正ができる仕組み」の持つ意味とは * 憲法改正手続...なぜ国会議員の「過半数」ではなく「3分の2以上」なのか。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	5 法と正義 (1) 正義と法的安定 (2) 正義の概念および正義論の特質	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	5 法と正義（続き） (3) 法的安定性とは * 法の明確性 * 罪刑法定主義と法の安定 * 法の解釈と法的安定性 * 日本の現実と法的安定性	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	6 裁判と法 (1) 権利救済・実現の制度としての裁判・司法	
	【予習】	
	【復習】	

第15回	6 裁判と法（続き） (2) 日本の裁判制度 ＊裁判・裁判所の種類 ＊裁判の仕組み ＊刑事裁判における裁判員制度	
	【予習】	
	【復習】	
第16回	期末試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	原則として、期末筆記試験(70%)と受講態度(30%)とによって評価します。 授業において課題を課した場合には、その提出状況および内容をも加味した評価を行います（期末筆記試験配点分の一部をそちらの評価分に充てます。その場合の配点については、授業中に明示します）。 なお、到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。 ディプロマポリシー配分比率： 人間性50% 社会性35% 専門性15%		
使用資料 <テキスト>	伊藤真『伊藤真の法学入門補訂版』(日本評論社、2017年)。	使用資料 <参考図書>	渡辺洋三『法とは何か 新版』(岩波新書、1998年)、村上英明他編『なるほど！法律学入
授業外学修等	配付資料やテキストを事前に読んで予習ノートを作成することなどが必要です。次回に授業で取り上げる箇所はわかるはずですから、必ず事前学習をしておきましょう。事前学習をもとに発表をしてもらうこともあります。上に示した参考図書以外にも図書館には法学入門的なテキストはいくつかあります。図書館へ通って、そうした文献を見つけ、読む努力もしてください。 また、授業では実際に進行中の社会現象を取り上げて説明することもあります。その際には、新聞記事を利用することも		
授業外質問方法	メール等での質問も受け付けますが、原則としては、直接会ってやりとりをしたいと思います。そのほうが的確に対応できるからです。時間調整のために事前にメール等で問い合わせてほしいと思います。メールアドレスは、授業時間中に伝えます。		
オフィス・アワー			